



## 嵐の前の静けさ

ここで言う「静けさ」とは市場のことで、値動きが静かか、静かでないかは VIX（ボラティリティ・インデックス）別名恐怖指数で表され、市場参加者の心理を表す。

VIX 指数が低ければ値動きが小さく、指数が大きければ値動きは乱高下であることを示す。現在の NY 市場の VIX は 10 - 13 で 2006 年以来最も低い。

2007 年末から始まった暴落の前夜は今日と同じく VIX 指数は最低であった。

Bloomberg の最近のアメリカにおける Leveraged lending（株式売買信用貸付残）の指標によると 2006 年のピーク 100 は 2008 年 9 月の暴落時には 60 まで下がったが現在は 100 に戻り、正に暴落前夜の様相。

FRB（連邦準備理事会）は 2008 年から 600 兆円相当の緩和資金を、資金を必要としない市場に国債を買う形で投入、資金インフレによる金利上昇を人為的に押さえてきた。

もし各先進国中央銀行の超大緩和が無ければ、株式、債券、不動産価格の上昇は有り得なかった。

FRB は支払い不能の米国債と心中することは出来ないので緩和（国債買い）を昨年 10 月末に止め、今や利上げ時期を模索している。

中央銀行が国債を買うから安心して国債を買ってきた結果短期国債の利回りはマイナスになっている。潜在的な不渡り手形を割り引くと、金利を払うどころかご褒美として金利がもらえるのである。

FRB が言う「正常に戻す」とは、不渡り型手形であろうと、一流手形であろうと割り引くには金利を払わなくてはならない状態に戻すということである。

世界の中央銀行としての FRB が世界の金利を上げると言うことである。

ロシアと中国は米国債の値がピークの現在盛んに売りながら外貨準備から米国資産を減らしている。

日本の公的資金で米国債を買い続けているが、日本の資金が間接的にロシアと中国に取られていることになる。今後起きることは国際的米国債の売り圧力。

米国債 10 年物利回りが 2% を超えて上昇し始めると、一斉に米国債売りの流れが加速し、国債市場、株式市場、不動産市場が暴落に向かうだろう。

「米国債市場が暴落の発端になる」と私が言ってきたが、その通りの様相になってきた。

今後の戦略的ナウな情報は「ここ一番！」と増田俊男の「目からウロコのインターネット・セミナー」をご参考下さい。

### 増田俊男の「時事直言」メール配信への移行をお勧めします！

現在増田俊男の「時事直言」を FAX 受信されている方々へメール配信（メルマガ配信）へのご登録をお勧めしています。メール受信に変更した場合、インク、用紙の節約になり、スマートフォンをお持ちの方は携帯でご覧頂くことが出来ますので外出先でもお読み頂けます。メール配信をご希望の方は下記記入欄へご記入頂き弊社までご返信頂ければ仮登録を行います。本登録は各自でおこなって頂く作業になります。詳しくは増田俊男事務所（Tel：03-3955-6686）まで。

現 FAX 番号：-----

変更先メールアドレス：-----

**送信先 FAX 番号：03-3955-6466**

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前に株式会社増田俊男事務所（Tel03-3955-6686）までお知らせ下さい。